

福祉生活病院常任委員会の県外調査に係る提言

令和元年12月18日

○ 複合バイオマス資源の活用等について

愛知県豊橋市のバイオマス利活用センターでは、国内最大規模の複合バイオマス施設として、下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥や生ごみなどをメタン発酵して取り出した電気の利活用だけでなく、発酵後の汚泥を加工した炭化燃料を利活用することで、100%エネルギーの再利用化に取り組んでいた。

こういった廃棄物として処理されるバイオマス原料から生み出された再生可能なエネルギーを利活用することは、温室効果ガスの削減を図り、地球温暖化防止に寄与するとともに、生ごみの分別への協力など住民の循環型社会に対する意識の向上にもつながる効果的な取り組みである。

また、この施設は既存施設の老朽化に伴い、PFI手法を導入し、施設整備と維持管理運営を行うことで、既存施設の規模縮小等を図り、財政負担軽減に努めていた。

本県においても、下水汚泥等の廃棄物由来のバイオマス原料によるエネルギーの100%利活用について施策として推進するとともに、老朽化しつつある天神浄化センターの在り方についても検討していただきたい。